

平成26年度

いしかわニュースーパーハイスクール

事業報告書

石川県立金沢二水高等学校

1. 「学校設定科目」での取組

1-1 「Sライティング」(英語科)

①参加生徒 人文科学・自然科学両コース 2・3年 163名

②目指すべき姿・つきたい力

2年次では、「発展演習英作文(日栄社)」を使い、より高度な英文を書くことに主眼を置き、3年次では、「トピック別英作文255題(日栄社)」を使って授業を行った。難解な問題に限定せず、文章上においても口語文においても基本をおさえて作文できるように指導した。また、日本語独特の言い回しについても、その表現の捉え方を再考させることによって、作文できるように指導した。

③日時内容

通年

④生徒の変容

成果としては、当初に目立った主語、動詞などの統語上のミスが、現在ではかなり減ってきたこと、これまで学んだ表現を駆使し、辞書に頼らず英訳できるようになってきたことが上げられる。

⑤改善の方向性や取組

今後の取組としては、現在は基本的な表現を用いて英訳する課題英作文が中心であるが、今後はこれまで取り扱ってきたトピックについて、学んだ表現をアウトプットし、自分の意見を英語で書く活動につなげていきたい。また、東京大学や京都大学、大阪大学などの難解な英作文にも挑戦させたい。

1-2 「アカデミックイングリッシュ」(英語科)

①参加生徒 人文科学・自然科学両コース 3年 81名

②目指すべき姿・つきたい力

「CROWN PLUS LEVEL 4(三省堂)」を使用し、幅広い内容について英文を読み、その概要や要点を捉えたり、筆者の主張に対する自分の考えを英語で述べる力の育成を図る。また、題材に応じて速読と精読を織り交ぜるなど、様々な読み方を身につけ実践する機会とする。専門的な内容の英文を読みこなせるように、読解に必要な英語構文の知識を増やし、難解な文構造の英文を正しく把握し正確な和訳ができる力を向上する。

③日時内容

通年

④生徒の変容

哲学や優生学といった通常の教科書では扱われない題材の英文を読み、知識と理解が深まった。特に優生学に関する文章では、過去に存在した差別的発想と今日の遺伝子工学の関係についてグループ討議をするなど、自分の意見を英語で表現する活動を通して英語表現力を伸ばすと同時に、多様な考え方に触れ視野を広めた。

後期には、難解な文構造の英文を読み取ることに主眼を置いて指導した結果、英語の論文や専門書を読むうえで必要となる英文理解力と和訳力の重要性や、英語学習の奥深さを実感し、意欲的に学ぶ姿勢も身についた。

⑤改善の方向性や取組

まとまった長さの英文を多く読むにせよ、難解な内容の英文を読むにせよ、まずは読解力自体を身につけ高めるのに時間を要する。読みの技術の習得にかかる時間と、多様な読みにかける時間をどのような割合にするか、教材選びと同時に計画する必要がある。

1-3 「数学アドバンスA」(数学科)

①参加生徒 人文科学コース 3年 41名

②目指すべき姿・つきたい力

数学Ⅱ・Bの分野を中心とした標準から発展までの問題を扱った。生徒が自ら取り組み、

その解法について発表し、質問に答えるという流れを通じて、表現力・思考力を身につけるよう指導した。

③日時内容

通年

④生徒の変容

習熟度別2講座に分けて授業を行っている。そのため、発表の頻度が多く、生徒の変容が早くからみてとれた。当初、生徒は解答方法の説明に終始していたが、質疑応答を経験するうち、その解法を選んだ経緯を簡潔に説明するところから始まるようになった。その結果、深く考える姿勢と理解する力を身につけ、同時に表現力も向上した。

⑤改善の方向性や取組

表現力に向上が見られた後は、時間に余裕があるときに授業の内容・進め方を変えるなど変化をもたせるよう意識した。今後は進度に余裕をもたせるような計画を立て、生徒の成長に合わせて授業内容を積極的に変化させていく方向で検討していきたい。

1-4 「数学アドバンスB」(数学科)

①参加生徒 人文科学コース 3年 41名

②目指すべき姿・つきたい力

主として数学I・Aの分野を中心とした標準から発展までの問題を扱った。生徒が自ら取り組み、その解法について発表し、質問に答えるという流れを通じて、表現力・思考力を身につけるよう指導した。また、発表後は新しい課題に取り組み、答案を添削されることで論理的な答案づくりを目指すよう指導した。

③日時内容

通年

④生徒の変容

当初は解答方法の説明に終始していたが、生徒による質疑応答を経験するうち、別解との比較を行うようになり、互いに刺激を与えているようだった。また、添削の効果もあって、誰からも理解される答案づくりを意識するようになった。その結果、深く考える姿勢と理解する力を身につけ、同時に表現力も向上した。

⑤改善の方向性や取組

表現力に向上が見られた後は、生徒の能力に応じて、方針の説明者と解答の説明者を変えるなど、生徒に刺激を与える方法について検討していきたい。

1-5 「数学アドバンスC」(数学科)

①参加生徒 自然科学コース 3年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

「ニューグローバルβ 数学I+A+II+B入試対策編(東京書籍)」を使って行った。入試の標準からやや程度の高い問題を扱い、その解答を生徒が板書・説明し、その内容について議論する活動を中心とした。前期では、①「正確に問題内容を把握し、様々な数学的考察から解決方法を探る力を培うこと」、②「根拠を明らかにし、筋道を立てて考え、記述する能力を高めること」を目標に指導した。後期では、目標①②の達成度を高めるとともに、「なぜだろう?」「どうしてだろう?」と問いながら学ぶ態度、お互い学びあう態度を育成した。

③日時内容

通年

④生徒の変容

成果としては、これまでに多くの生徒が、①解答をつくろうとする際、まず問題の内容を正しく把握しようとする、②動機や根拠を説明しなければ自分の考えをうまく伝えることができないので、まずそれらをしっかり考えるようになってきたことが上げられる。

⑤改善の方向性や取組

現在は入試の標準問題を扱うことが中心であるが、今後はさらに進んだ内容について、学び、考え、自分で表現する活動につなげることに取り組みたい。

1-6 「数学アドバンスD」(数学科)

①参加生徒 自然科学コース 3年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

「オリジナルスタンダード数学演習 受験編(数研出版)」を使用した。入試の基本から難易度の高い問題まで幅広く扱い、その解答を生徒が板書・説明し、その内容について議論する活動を中心とした。「的確に問題の意味を捉え、数学的考察から解決方法を探る力を培うこと」、「1つの解決方法だけではなく、他にも解決方法はないかを探る力を養うこと」、「自分の考えを理論的に他者に伝える能力を高めること」を目標に指導した。今後も、目標の達成度を高め、さらに生徒の自主的な学びの意欲を育てていきたい。

③日時内容

通年

④生徒の変容

成果としては数学アドバンスCと同様に、多くの生徒が解答をつくろうとする際に問題の内容を正しく把握しようとし、動機も説明しなければ自分の考えをうまく伝えることができないということを意識しながら、根拠をしっかりと考えることができるようになってきた。

⑤改善の方向性や取組

やはり数学アドバンスCと同様に、今後はさらに進んだ内容について、学び、考え、自分で表現する活動につなげることに取り組みたい。

1-7 「言語情報」(国語科)

①参加生徒 人文科学・自然科学両コース 3年 81名

②目指すべき姿・つきたい力

人文科学コース(3単位)では、さまざまな分野・タイプの文章の読解や問題演習を通じて、大学入試やそれ以降に必要な的確かつ簡潔な記述力の涵養に努める。また自然科学コース(2単位)では、論文執筆が重視される自然科学系の特徴を鑑みて、論文読解やその特徴分析を重点的に実施し、論理的な思考力・記述力の向上に努める。

③日時内容

通年

④生徒の変容

長文読解や大学入試過去問題研究などに時間をかけるなど、普通コースの「現代文」を大きく超えた内容を扱っており、表現力・読解力の育成で効果が現れた。

⑤改善の方向性や取組

読解と表現、二つの力の向上を目指したが、時期によっては表現力よりも読解力の育成に重点を置くことが多かった。しかし表現力はコミュニケーション能力の大切な要素であり、大学入試でも表現力の差が結果を左右することから、次年度以降は二つの力をできるだけ並行して計画的に育成していきたい。

具体的には、班ごとの調査・効果的な発表やそれに対する相互評価、簡潔で充実した表現の追求などを想定している。

1-8 「S古典」(国語科)

①参加生徒 人文科学コース 3年 41名

②目指すべき姿・つきたい力

より高度な古典(古文)理解を目指し、難解な文章の読解や問題演習を通じて大学入試やそれ以降に必要な的確かつ簡潔な記述力の涵養に努める。

③日時内容

後期

④生徒の変容

文学史概説や文学の系譜など他コースでは扱わない内容を積極的に扱い、古典に関する幅広い知識を身に付けさせ、大局的な理解を促すことに役立った。また難関大学の種々の分野の過去問題を積極的に扱うことにより、古典とその背景に対する理解が深まった。

⑤改善の方向性や取組

現時点では、今年度の実施に大きな改善を要する点はないと考える。敢えて言うなら、少人数の班を編成して「学びあい」の機会を設ける、口語訳を細分化して生徒一人ひとりに責任を持たせるなどの方策によって積極性を発揮させることがあげられる。

2. 「総合的な学習の時間」での取組

(1) グローバル・ソリューション (GS)

①参加生徒 人文科学コース 2年 42名 ※3年については、発展的学習を実施

②目指すべき姿・つきたい力

- ・少人数の班を編成し、自分の興味・関心に基づくテーマを設定して課題探究活動を行う。
- ・課題探究活動を通して、教科・科目横断的な学習活動を行う。
- ・模擬裁判実習授業を通して、多角的な視点を持って物事を批判的に考察させるとともに、説得力のある論理的な表現力を高める。
- ・グローバルゼミを通して、異文化理解やコミュニケーション能力を向上させる。
- ・様々な体験的活動を通して、思考を深めるとともに、自己肯定感を高める。
- ・教科の授業をより発展させた活動を取り入れ、高度な専門知識を身につけさせる。

③日時内容



5月19日～23日、
金沢大学研究室訪問



6月9日～20日、
模擬裁判実習授業



8月2日、
第8回高校生模擬裁判選手権中部・
北陸大会（準優勝）



11月12日、
グローバルゼミ（GS課題探究活動
の成果を英語で発表）



11月12日、
グローバルゼミ（班別ディスカッション「異文化の壁」について）

④生徒の変容

- ・1年を通して同じテーマを探究することで、思考の練り直しを行う機会を多く持つことができ、知の体力という意味で、忍耐力を身に付けることができた。
- ・中学生とのコミュニケーションフェアを通して、わかりやすく伝えることの困難さや大切さを学ぶことができた。
- ・いろいろな方向（立場）から考える判断力や事実に基づいて論理を展開する思考力が高まった。
- ・調べ学習やフィールドワークを実施したり、研究論文等の文献を調べた上で論文を書いたり、プレゼンテーションソフトを用いて発表することで、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方などを学んだ。

＝事後のアンケートより＝

「課題探究は有意義で満足したか？」

- ・当てはまる。 41.5%
- ・まずまず当てはまる。 56.1%

「課題探究の意義や満足した点」

- ・自分たちに身近なテーマを設定することができたため、楽しく意欲的に取り組むことができた。
- ・自分たちで課題を見つけることができた。
- ・班員と協力することで一体感を味わうことができた。
- ・様々な視点から課題や問題点を指摘するということが初めてだったので、良い経験になった。
- ・人文科学コースでしか学べないことを学び、充実感を感じる事ができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・課題探究テーマの決定は、金沢大学への打診の締め切りから逆算しての上だが、さらに十分な時間をかけて行う。
- ・探究活動のノウハウを学ぶ研修会を実施する。生徒のみならず、広く教員も参加する。
- ・指導教官を1グループに固定するのではなく、2グループ掛け持ちとする。
- ・論文の作成を全体の主軸に据え、土台をしっかり作った上で発表につなげさせる。
- ・生徒の相互批判や評価の機会を増やす。（批判を適切に伝え合い受け止める態度の涵養も重要と考える。）
- ・他のグループのレジメを見る機会も設けられたが、それをもとに、教員間で話をする機会も設ける。

(2) まほろば研修

①参加生徒 人文科学コース 2年 42名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・大学・学部訪問や各施設での体験学習を通して、生徒一人ひとりが人文科学・社会科学分野における知見を広げ、互いに切磋琢磨する学習集団を作る契機とするとともに、人文科学コースのクラスとしての団結力を高める。

③日時内容

11月20日（木）～21日（金）1泊2日



大阪大学経済学部でのミニ講義



明日香村での班別自主研修

④生徒の変容

＝事後のアンケートより＝

「研修旅行は楽しく満足したか？」

- ・当てはまる。 70.7%
- ・まずまず当てはまる。 29.3%

「研修旅行の楽しさや満足した点」

- ・卒業生と語る会が特によかった。卒業生の話がとてもためになった。
- ・普段の学校生活とは異なる体験ができた。
- ・万葉の世界に触れられてよかった。
- ・勉強に対するモチベーションが上がった。

⑤改善の方向性や取組

- ・次年度は東京での研修になるので、これまでの「まほろば研修」の成果（特に班別自主研修で培われた自主性や積極性）を継続しつつ、改善を図りたい。
- ・事前学習をより充実させ、研修に必要な知識を身につけることはもちろん、研修旅行に臨むモチベーションをさらに高める指導をしたい。

(3) リアル・サイエンス (RS) 自然科学 2年：2単位、3年：1単位

①参加生徒 自然科学コース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・少人数の班を編制し、自分の興味・関心に基づくテーマを設定して課題探究活動を行う。
- ・課題探究活動を通して、教科・科目横断的な学習活動を行う。
- ・基礎科学の理解、仮説検証による実証や問題解決、成果の発表を行う。
- ・実験を通して、知識や理論に実感を持たせる。
- ・教科の授業をより発展させた活動を取り入れ、専門的知識を身につけさせる。
- ・外部講師の招聘、大学や研究機関との連携により、最先端の研究に触れさせる。

③日時内容



4月18日～11月7日、
RS課題探究活動（物理班）



同左 RS課題探究活動（化学班）



12月12日、
SSH合同発表会での生物班の発表



12月19日、
1年生理系志望者への発表（数学班）

④生徒の変容

- ・実験や観察を進めたり、研究論文等の文献を調べた上で論文を書いたり、プレゼンテーションソフトを用いて発表することで、研究の進め方、まとめ方、発表の仕方などを学んだ。
- ・いしかわ高校科学グランプリ出場を通して、他校の科学好きの生徒と筆記や実技で競い合い、数学や理科の応用力や実践力を伸ばした。

＝事後のアンケートより＝

「探究活動は有意義で満足したか？」

- ・当てはまる。 33.3%
- ・まずまず当てはまる。 64.1%

「課題探究の意義や満足した点」

- ・探究活動は大変だったが、その分活動を終えた後の達成感が大きかった。
- ・パワーポイントでスライドを作成し、他者にわかりやすく伝えようとする力が身についた。
- ・挙げた疑問点を班員と共有し、得られたデータから、その問題点を解決しようとする力がついた。
- ・自由に課題設定することができてよかった。
- ・大学での研究が楽しみになった。
- ・身近な場面で「数学」が使われていることに気付くことができた。
- ・普段の授業では学ぶことができないような活動に取り組むことができた。
- ・専門的な学習を通して、科学的な視野を広げることができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・教員が生徒に課題テーマを与えると、生徒は受け身になってしまう傾向が見られた。来年度は、教員と生徒が話し合っって課題テーマを決めることにより、さらに主体的な活動を目指したい。

- ・自然科学コースの生徒と1年理系選択者を対象に成果発表会を実施した。来年度は、人文科学コースの生徒を対象に成果発表会を行い、発表の工夫点などを学び合う機会を設けたい。

(4) サイエンスツアー

①参加生徒 自然科学コース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・大学・学部訪問や各施設での体験学習を通して、生徒一人ひとりが自然科学分野における知見を広げ、互いに切磋琢磨する学習集団を作る契機とするとともに、自然科学コースのクラスとしての団結力を高める。

③日時内容

11月20日(木)～21日(金) 1泊2日



大阪大学理学部での実験実習



宿泊所での「卒業生と語る会」
(人文科学コースと共通)

④生徒の変容

＝事後のアンケートより＝

「研修旅行は楽しく満足したか？」

- ・当てはまる。 43.9%
- ・まずまず当てはまる。 51.2%

「研修旅行の楽しさや満足した点」

- ・普段の生活では体験できないようなことが多く、有意義な研修旅行であった。
- ・貴重な体験をし、学習意欲が高まるような良い刺激を受けることができた。
- ・大阪大学のキャンパスを訪問し、大学の雰囲気を感じ、興味を持つことができた。
- ・理学部の研究室で、さまざまな実験装置を目の当たりにし、大学での研究活動に対して興味を持つことができた。
- ・宿泊ホテルで行った「卒業生と語る会」では勉強方法を具体的に知ることができた。また、普段の授業の大切さを学んだ。
- ・クラスの仲を深めることができ、団結力が増した。

⑤改善の方向性や取組

- ・対象クラスには志が高い生徒が多くみられる。この状況を踏まえ、来年度は東京大学キャンパスやつくば市にある研究機関・企業を訪問し、最先端の研究や自然科学を学ぶことにより学習意欲を高めたい。
- ・目的地を大阪から関東方面に変更すると、研修旅行の活動内容は大きく変わってくる。近隣の高校に情報提供してもらい、無駄の少ない充実したものになるように訪問先を吟味しながら計画を立てたい。
- ・事前学習をより充実させ、研修に必要な知識を身につけることはもちろん、研修旅行に臨むモチベーションを高めたい。

3. 特色ある教育活動

(1) 「先達に訊け！ あかつきフォーラム」

①参加生徒 2年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

各界、各層で中堅として活躍する本校卒業生を招いて、現在の社会状況や実体験をくことで、自己の進路設計を考えることができる。

③日時内容

11月1日(土)

13:00～13:55

パネルディスカッション

14:05～14:55

ワークショップ

14:55～15:55

感想文

パネリスト

※コーディネーター山口 氏

・山口 敬士朗 氏

(福祉施設職員・NPO かなざわ創造塾「鼎」理事長)

・安部 鉄平 氏

(金沢市消防局職員)

・河崎 優希 氏

(富山大学教員)

・小竹 貴子 氏

(食アドバイザー)

・内藤 雅志 氏

(石川県庁職員)

パネルディスカッション

内容

「進路を決めたエピソード・仕事の魅力」等

ワークショップ内容

「仕事の紹介や簡単な体験」等を講師5人がそれぞれ紹介

④生徒の変容

=事後のアンケートより=

「パネルディスカッションは良かったですか？」

・大変良かった。 31.0%

・良かった。 64.0%

「ワークショップは良かったですか？」

・大変よかった。 55.0%

・良かった。 42.0%

=生徒の感想文より抜粋=

・パネルディスカッションでパネラーの方が現在の仕事に就いた理由はさまざまであったが、今はとても幸せといていたのが印象に残っている。

・高校生と大学生や社会人では価値観が変わることを学びました。これから生きるためには、「才能」と「努力」と「考え方」が大事で、同質性から一歩、外に出て、信頼でき

- る人からの依頼は断らないということをお話の中で聞いて学ぶことができた。
- ・理系でも「英語」はとても必要であることを学びました。大学や学部を選ぶときに、迷ったり、悩んだり、考えたりするけれど、最終的に決めるのは自分で、いろいろなことを学ぶことで、選択肢が広がることを学びました。
 - ・人がいやがることなどを「私がやります。」と言ってすることで、周りの人々の評価や見方が変わり、周りの人々にも影響を与えるということを学びました。そのような行動が増えていくことで少しずつよりよい世界が広がっていくので、わたしも心がけていこうと思いました。

⑤改善の方向性や取組

- ・昨年度、ワークショップで生徒は5人の講師の中から3人の方を選び15分ずつ話を聞いていたが、今年度は、2人の方の話を20分ずつ聞くことにした。昨年より落ち着いて話を聞けたが、体育館で行っているため、5人の講師の方の話が同時に聞こえるので、生徒が話しを集中して聞く事が困難な面がある。各講師の話を個別の部屋で聞けるとよい。

(2) 国際理解教育講演会

①参加生徒 1年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

1年生全員を対象に、職業の異なる3名の講師の方々から講話を聞く。今年還暦を迎えられた本校卒業生の社会人で、国内外の様々な分野で活躍しているの方々による後輩への有意義な助言や参考になる経験談を聞くことにより、自己の進路設計について考える機会とする。

③日時内容

10月29日(水)

14:05～15:15

講演

15:25～15:55

感想文

講師

綾部 真雄 氏

(首都大学東京 大学院人文科学研究科教授)

演題

「他者に共感するということがタイ先住民と暮らした経験から」

④生徒の変容

＝生徒の感想文より抜粋＝

- ・相手の主観に立って物事を見ることが、同情を乗り越えた共感につながることを学んだ。
- ・様々な角度から物事をとらえることの大切さを知った。
- ・他者理解のためには、その人の文化や生活を知ることが大事である。
- ・自分はまだまだ世界のことを誤解しているんだと実感した。
- ・私たちの日本の文化や日本人の考え方を、私たちとは異なる文化をもつ人たちに知って欲しいと思いました。

⑤改善の方向性や取組

- ・次年度は、駐日欧州連合代表部広報部スクール・イベント係主催の「EUがあなたの学校にやってくる」を実施し、より一層国際的な視野を広げるとともに、生徒の進路を考える上でも意義の大きな取組にしていきたい。

(3) 英語学力の向上・Introducing Japanese Culture 及び学習成果発表会

①参加生徒 2年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

英語表現力の向上及び総合的英語力の向上

③日時内容

通年

④生徒の変容

・台湾修学旅行において、日本文化の紹介（石川県関係も含む）を英語で行い、クラスで発表会を実施した。英語を使えることは大切だが、それ以上に物おじせずに話しかけてくる台湾の生徒に強い影響を受けていた。また、英語をもっと勉強しておけばよかったという反省から学習意欲が高まった。

⑤改善の方向性や取組

・次年度、台湾修学旅行に向け、総合的な学習の時間を通して、今年度の状況を踏まえて、台湾学習を行った上で、故郷石川の情報をもっと英語で発信できるように計画する。また自身の情報も英語で発信できるようにする。

(4) 大学学部・学科説明会

①参加生徒 1年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

大学から教師を招いて模擬講義を受け、学問の奥深さ、大学教師の学問に対する真摯な姿勢を学ぶとともに、大学に関するさまざまな疑問を質問することにより、進路目標を明確に意識する。

③日時内容

7月9日（水） 14:05～15:55

講師

富山大学人文学部

准教授 伊藤 智樹 氏

「人文学部ってどんな学部？」

富山大学人間発達科学部

准教授 林 衛 氏

「人間発達科学部ってどんな学部？」

富山大学経済学部

教授 竹地 潔 氏

「経済学部ってどんな学部？」

富山大学大学院理工学研究部

教授 岩坪 美兼 氏

「理学部ってどんな学部？」

富山大学大学院理工学研究部

教授 川口 清司 氏

「工学部ってどんな学部？」

富山大学大学院医学薬学研究部

准教授 坪田 恵子 氏

「看護学科ってどんな学科？」

富山大学大学院医学薬学研究部

教授 酒井 秀紀 氏

「薬学部ってどんな学部？」

④生徒の変容

＝事後のアンケートより＝

「将来の学部・学科選択に参考になりましたか？」

- ・大変参考になった。 27.6%
- ・だいたい参考になった。 55.3%

＝生徒の感想文より抜粋＝

(全体での主な感想)

- ・大学の先生から直接話が聞けたので、大学について興味が湧いた。
- ・大学進学後のことも考えて、英語・国語・数学をやることが重要だと分かった。
- ・大学での専門的な勉強はとてもレベルが高く、やりがいがあるものだと分かった。
- ・大学では積極的に研究することが一番大事であることが分かった。

⑤改善の方向性や取組

- ・内容が大学のPRに偏らないようにしてもらおうこと。(学部の一般的な特徴がつかめること。)
- ・生徒にある程度下調べをさせておいて、実のある質問ができるように計らうこと。
- ・大学は、富山大学にこだわらず、再検討も視野に入れること。

(5) 関東大学訪問

①参加生徒 1・2年 40名

②目指すべき姿・つけたい力

より高い進路目標をもって、日常の学習に取り組むことができる。

③日時内容

8月7日(木)～9日(土)

8/7(木)

- 8:00 学校発(貸し切りバス)
- 8:30 金沢駅発
- 15:00 日本科学未来館 見学

8/8(金)

- 9:00 東京工業大学 大岡山キャンパス見学
(案内:1年在籍の本校卒業生2名)
- 11:30 一橋大学 国立キャンパス見学
(案内:1年在籍の本校卒業生1名及び
大学幹旋の学生2名)
- 15:00 駿台予備学校にて講話
「難関大(東大)受験について」
- 19:00 食事後、卒業生と語る会
(本校卒の東大生、一橋大生、東工大生 各1名)

8/9(土)

- 9:30 東京大学 本郷キャンパス見学
(案内:2,3年在籍の本校卒業生2名)
- 19:30 金沢駅着
- 20:00 学校着

訪問先

- 東京工業大学・一橋大学
- 東京大学・駿台予備学校

④生徒の変容

事後アンケートの結果、全員が有意義であったと答えている。

＝事後アンケートより＝

「参加してどうでしたか？」

- ・とても有意義だった。 77.5%
- ・まあまあ有意義だった。 22.5%

＝生徒のアンケートより＝

- ・先輩達の話がおもしろくてためになった。(入試や学生生活など)
- ・早めのスタートがいいと聞いたので今からしっかり勉強したい。
- ・大学の雰囲気がよかった。こういうところで過ごしたいと思った。

⑤改善の方向性や取組

- ・生徒にとって有意義な行事であり、今後も改善しつつ発展的に継続していく予定である。
- ・早期に良いものを見せ、実感を大事に目標設定へ向かわせる意味が大きい。

(6) 産学発見 (企業・官公庁訪問研修)

①参加生徒 1年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

企業や官公庁を訪問し、職場の雰囲気を肌で感じるとともに、そこで働く人から、仕事の内容等を聞くことにより、自分の進路や働く姿を具体的に考えることができる。

③日時内容

10月15日(水)

訪問先企業・官公庁等

北國新聞・金沢ケーブルテレビネット (31名)

金沢地方検察庁 (29名)

北國銀行 (27名)

金沢税務署 (24名)

石川県庁 (29名)

石川工業試験場 (22名)

北陸電力石川支店 (24名)

NTT西日本金沢支店 (28名)

PFU (27名)

西野製作所 (26名)

石川県済生会金沢病院 (30名)

中村留精密工業 (22名)

石川県農業総合センター (25名)

JR西日本金沢総合車両所 (28名)

澁谷工業 (28名)

④生徒の変容

- ・昨年度より受け入れ企業が1社増え、生徒全員が希望する会社を訪問することができた。企業の中には、意識的に本校OBを質疑応答の時間に参加させて下さったため、生徒は生き生きして話を聞き、好感度は高かった。

＝事後のアンケート＝

「参加してどうでしたか？」

- ・大変よかった。 60.0%
- ・よかった。 40.0%

＝生徒の感想文より抜粋＝

- ・実際に工場に入り、製品ができあがるの場所を見たことがなかったのでいい機会だった。将来自分の就く仕事のイメージを少し固めることができたと思う。実際、職人さんが仕事をしているところを見ることができて良かった。(製造業関係)

- ・私たちがいつも安全に電車に乗れるのは、たくさんの人の労力と厳しい点検作業のおかげだということが分かった。いつも頑張っている JR の人々に感謝したい。（運輸関係）
- ・県庁内では、数年ごとに部署が異動し、様々な仕事に携わることを知った。県に関するいろいろな仕事ができることは魅力的だと思う。県庁は石川県の心臓部であり、ここが機能しなければ、私たちは普通に生活ができないと思う。（県庁関係）
- ・実際に作業をしている様子や機械を見ることができたのでよかったです。パソコンで地域の電気を管理できるというのがすごいと思いました。停電が起きた時に、あのように機械や人が働いているのだと実感を持って分かりました。（電力関係）
- ・私はこれまで農業に関わりを持ったと思ったことがほとんどなく、毎日出されるご飯に何ら疑問を持っていませんでした。しかし、今回の体験で、1つの種類を作り出すためには10年以上の歳月をかけ、本当に手間暇かけて作っていることが身にしみて分かりました。あと、収穫時期を広げているのは野菜だけだと思っていましたが、花や米も遅らせたり、早めたりと工夫していることに驚きました。（農業試験場関係）

⑤改善の方向性や取組

- ・生徒が行った企業の知識をクラスの生徒全員で共有することを目的に、クラス発表会を行っている。多忙の担任業務を考慮し、発表形式を担任に一任せず、NSH で発表形式の統一化を検討する。

(7) ボキャブラリーテスト及びコンテストの実施

①参加生徒 1年 400名

②目指すべき姿・つきたい力
英語の語彙力をつける。

③日時内容

実施日（1年）

第1回

7月29日（火）

第2回

11月22日（土）

第3回

平成27年3月7日（土）

実施日（2年）

第1回

8月23日（土）

第2回

12月22日（月）

第3回

平成27年 3月7日（土）

④生徒の変容

- ・1年生 第1回 平均点 75.4 点
第2回 平均点 73.4 点
第3回 平均点 点（未実施）
- ・2年生 第1回 平均点 76.2 点
第2回 平均点 75.5 点
第3回 平均点 点（未実施）
- ・1年生、2年生ともにマーク式で主に単語認識力を高めることを目的に実施した。単語の意味だけでなく、熟語、発音の問題を出題した。単語難易度レベルが上がっているのので、それに比例して平均点がすこしずつ下がっていった。

⑤改善の方向性や取組

- ・このテストは、普段の授業で行ってきた小テストの総まとめとなるもので、語彙力の定着度を測るものとなっている。反面、テスト範囲が広がるため、学習意欲が欠ける生徒が見られる。テスト範囲の復習プリント等を配布して生徒の学習意欲を高めて、点数を取らせる工夫をする。

(8) 英語学力の向上・GTEC受験

①参加生徒 1・2年 800名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・1年生で480点、2年生で530点相当の英語力を習得する。
- ・参考

金大合格者の平均スコア

1年生474点 2年生525点

③日時内容

実施日 12月13日(土)

1年

8:40～9:30 リスニング試験

9:40～12:20 筆記試験

2年

8:30～11:30 筆記試験

11:40～12:30 リスニング試験

対象

1年生全員 Basicを受験

2年生全員 Advancedを受験

④生徒の変容

- ・1年

本校平均点/満点(全国平均点)

Reading 190.6 / 250 (151)

Listening 188.4 / 250 (156)

Writing 117.6 / 160 (99)

全体平均 496.7 / 660 (407)

- ・1年生は目標点に対して+16.7であった。また、1年生は昨年度1年生と比べ、全体平均で+16.6、Readingは+3.8、Listeningは+5.8、Writingは+6.9であった。この学年の特徴は昨年度1年生よりReading、Listening、Writing全てにおいて英語力が高いと考えられる。

- ・2年

本校平均点/満点(全国平均点)

Reading 195.1 / 320 (167)

Listening 206.5 / 320 (173)

Writing 120.3 / 170 (104)

全体平均 521.9 / 810 (446)

- ・2年生は目標点に対して-8.1であった。昨年度の2年と比べると、全体平均で-5.4、Readingは-2.9、Listeningは-1.6、Writingは-0.9であった。この学年は昨年度の2年生より全ての分野において成績が落ちている。

⑤改善の方向性や取組

- ・1年生の成績は昨年度と比べるとかなり向上している。さらに力をつけさせるために、体系的な読解、文法の講義を授業に組み込むことを考えている。
- ・2年生の成績は昨年度から比べるとReading、Listening、Writingの分野で成績が下回っ

ている。基礎基本を中心に Reading、Writing は授業を通して関連性を持たせて教えることで対応する。

(9) からたち塾

①参加生徒 1年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

今年60歳を迎える本校卒業生で社会的に地位の高い人の経験を聞くことにより、自己の進路設計を考えることができる。

③日時内容

11月2日(土)

13:05~14:20 講演

14:30~15:00 感想文

講師

盛一 丈嗣 氏

(元自衛官<陸将>)

西川 嘉一 氏

(北陸放送勤務<編成局長>)

山田 邦子 氏

(北陸財務局勤務<統括国有財産監査官>)

④生徒の変容

=事後のアンケート=

「参加してどうでしたか？」

・大変よかった。 51.3%

・よかった。 47.1%

=生徒の感想文より抜粋=

・印象に残っているのは、「逃げ出さないこと」です。誰にでも辛いこと、苦しいことがあるのは同じです。その中で、自分とこの先どうやって向き合っていけるかが大切だと気づきました。

・この講演を聴いて自分の考え方、自分のこれからについて改めて考えさせられました。山田さんの話からは伝え合うことの大切さを、西川さんの話からは「輝いている人は、自分自身を表現することが上手」ということを、盛一さんの話からは、社会の厳しさとだからこそ生き甲斐を持って働くことが大事であることを教わりました。

⑤改善の方向性や取組

・事前の打ち合わせを一層綿密にすることによって、講演に臨む生徒のモチベーションを高める工夫を行う。

・文系か理系かの選択を決定し、2年生に向けて準備を始める時期の1年生にとって、より有効で意義の大きな講演になるように企画していく。

(10) 英語学力の向上・英語ディベート発表

①参加生徒 1年 400名

②目指すべき姿・つきたい力

・対話を通して、自己発信力を身につける。

・相手の話をよく聞くことができる。

③日時内容

日時

クラス発表会：1月中に各クラスで実施

全体発表会（今年度はなし）

概況

1年生はコミュニケーションIの総仕上げとして、生徒各自がいくつかのテーマから興

味のあるものを1つ選び、ディベート形式の対話を行い、クラス内で発表した。また、優秀な生徒は学校全体で発表をすることになっていたが、行事日程の関係で今年度は実施しなかった。

④生徒の変容

- ・論理的構成を意識したライティングや英語対話は、1年生にとっては初めての経験であるが、生徒の学習意欲は高く、全員がやり遂げることができた。

⑤改善の方向性や取組

- ・生徒の発表原稿作成にかかる時間が不足気味であった。次年度は、時間的に余裕が持てるように計画する。

(11) 在り方・生き方講演会

①参加生徒 全学年 1200名

②目指すべき姿・つけたい力

青年期の生き方・在り方について深く考え、社会に対する認識を深めるとともに、自己の将来を考えるよい機会とする。

③日時内容

5月16日(金)

13:15～14:45 講演

14:55～15:25 感想文

講師

森 喜朗 氏 (元内閣総理大臣)



講演後の森先生と代表生徒

④生徒の変容

＝生徒の感想文より抜粋＝

- ・森先生のお話を聞いて、「二水高校は勉強ばかりで辛い」と今まで思っていたが、その苦難を乗り越えてこそ「チャンス」が自分にやってくるのだと、自分の心に言い聞かせることができ、これからの高校生活の意義を見出すことができました。
- ・森先生のお話の中に出てきた「人間力」、すなわち社会に出て役に立つ力が印象に残りました。そして今の私は、学校生活や勉強を通して、大切なそれを学んでいるのだと思いました。
- ・私も森先生のように、チャンスをうまく活かせるように、それをただ待っているのではなく、目標を設定して積極的にそれに向かっていきながらチャンスをつかみたいと思いました。

⑤改善の方向性や取組

- ・3年間に1回開催される、本校卒業生で元内閣総理大臣の森喜朗先生による後輩達への「人生指南」や「檄」を中心とした講演会は、本校ならではの大切な行事なので、今後ともバージョンアップを図りつつ継続していきたい。

(12) 卒業生の話を聞く会

①参加生徒 1・2年 800名

②目指すべき姿・つけたい力

難関大学への進学意欲を高め、自己の進路設計をすることができる。

③日時内容

平成27年3月16日(月) 実施予定

4. その他の取組

(1) NSH成果発表会

①参加生徒 人文科学・自然科学両コース 2年 82名 1年 400名

②目指すべき姿・つけたい力 ③日時内容 ④生徒の変容⑤改善の方向性や取組

1. (1) グローバル・ソリューション (GS)、(3) リアル・サイエンス (RS)
参照

(2) 授業研究会(他校への参加)

(3) SSH合同発表会への参加

①参加生徒 2年自然科学コース 40名

②目指すべき姿・つけたい力 ③日時内容 ④生徒の変容 ⑤改善の方向性や取組

1. (3) ③リアル・サイエンス (RS) 参照